

様 式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成26年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学

3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 補助事業期間 平成25年度～平成28年度

5. 課題番号

2	5	8	7	0	4	0	9
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名 ハワイ語ラジオ番組の相互行為分析

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
9 0 6 0 9 3 7 2	フルカワ トシアキ 古川 敏明	文学部	講師

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

本研究の目的は、危機言語研究に相互行為分析の視点を導入することである。具体的には、ハワイ語ラジオ番組をデータとして、データベースの構築を行い、番組内における相互行為の分析を行っている。平成26年度は研究計画の2年目にあたり、初年度から引き続き、(1)録音資料の分類、整理、文字起こし、(2)文字起こししたデータの分析、(3)類似例の抜粋とコレクションの構築を実施した。

(1)については、16年間にわたる400回を超える番組カ・レオ・ハワイの要約集を利用し、放送回数の推移、ハワイ語母語話者と第2言語話者を含む番組出演者の出生地・言語的影響を受けた場所・性別・出演回数などを整理することによって、番組の特徴を把握するよう努めた。番組の概要は当事者たちに記憶されていることを除けば、今回のような形で番組の全体像を示す試みはなかったので、研究を進める上で有益な貢献であるといえる。一方、文字起こしについては、初年度は1名だった研究協力者を3名に増員することができ、結果的に、今年度の計画を大きく上回る合計12番組分を文字起こしすることができた。文字起こしは時間と労力のかかる作業であるが、データベースの構築は着実に前進している。研究計画の3、4年目（最終年）で分析により比重を置く上で、データベースの構築を前倒しして進めることは重要である。

(2)と(3)については、番組における現象全般に目を配りつつ、特に、ハワイ語と他の言語間の切り替え、エスニシティや地名といったさまざまなカテゴリーの使用、神話や伝説といった物語の相互行為的な語りに着目して分析を進めている。研究協力者を日本に招聘して情報交換を行い、さらに招聘者と研究代表者が国内で口頭発表を行い、研究を進展させることができた。